



市長が登場！まちづくりトーク in イーアスつくば

タウンミーティング
×
未来構想キャラバン

発行日：令和元年11月

編集・発行：つくば市 政策イノベーション部 企画経営課

◆市民の皆さんに市長がまちづくりについて語る公開トークを開催しました！

つくば市の取組や現在策定中の「つくば市未来構想」について市長が語り、あわせて、まちづくりアドバイザーの山崎満広氏も登壇して、ポートランドのまちづくりについて紹介するとともに、市長とトークを行いました。

また、会場内のみなさんにお聞きした「2030年の未来像」を紹介するとともに、参加者の皆さんと意見交換しました。

日時：令和元年10月20日（日）15:30～17:00

会議場所：イーアスつくば 1階センターコート

参加者：約100名（事務局含まず）



◆主な意見交換内容

1. 2030年のつくば市への期待について



前半の市長によるつくば市の取組紹介や、山崎氏によるポートランド市の事例紹介などを受けて、参加者の皆様からご質問や、2030年のつくばの未来像について多くのご意見をいただきました。

(1) 安全な道路交通について

- ポートランドに5年住み4年前につくばに引っ越してきたが、豊かな街のベースの一つは安全だと実感している。
- つくば市でも安全な街づくりを実現するため、警察とも連携しながら、混雑する幹線道路では右折を禁止する等の対応をして事故や渋滞を減らしてほしい。
 - 地域の皆さんで考えてもらうことはよいことである。ポートランドでは、街の中で豊かな生活をしたいから高速道路は不要だと住民が意思決定している。



(2) マイカーと公共交通の共存について

- ポートランドで駐車場を廃止して大規模な公園にした話が興味深かった。
- つくば市は車社会であり、自家用車や駐車場がなければ生活できない。また、公共交通もまだまだ問題が山積みだが、ポートランドのようになるのが理想ではないかと考える。
 - ポートランドは車社会だが、街の中心部には公共交通で行ける。空気もきれいで安全な街になる。
 - 本気でつくば市を自転車社会に変えていきたい。



◆お問合せ◆つくば市役所 政策イノベーション部 企画経営課

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1 TEL 029-883-1111/FAX 029-828-4708

*未来構想に関する質問・意見は、政策イノベーション部企画経営課のメールアドレス（pln010★city.tsukuba.lg.jp）まで（なお、メールアドレスの★は、@記号に置き換えて下さい）

(3) 地産地消の推進について

- 地産地消を推進するならば、市役所内のレストランでつくば市産の食材を使った料理を提供し、市内で美味しい食材が獲れることをアピールしてほしい。
- 現在、レストラン経営の契約更新時期を迎えており、つくばの食材を使ったメニューを増やすことを事業者選定の公募条件にしたい。



2. アンケートの主な自由意見

■ まちづくりトークについて

- ポートランド市の取組が参考になった。
- つくば市と自分の未来を考えるきっかけになった。
- つくばの将来を知りたいので、今後も開催してほしい。
- このような場所で開催することは大切だ。
- つくば市の様々な課題を共に考えていきたい。
- 外国から移ってきたが、これからつくばがどう進んでいくか期待している
- より沢山の人に聞いてもらう工夫をしてほしい。
- 話の背景が市民に伝わっていないように感じた。
- 市長や講師の話が長く、一方通行だった。



■ これからのまちづくりについて

- 運転ができなくなった高齢者のことを考えて、公共交通を増やしてほしい。
- 未来に向けたキラキラした目標も良いが、まずは住民の環境を整えることを優先してほしい。
- ポートランドでは運転マナーが良いので安心して暮らせていたが、つくばでは土日に車で外出することを控える程である。
- 駅から歩いて行ける公民館があるとよい。
- 運動公園や、雨天型イベント会場が欲しい。例えば、水戸の芸術祭には沢山の人が訪れる。芸術に対する人々の意識の高さを感じる。それもひとつの豊かなまちだと思う。
- 筑波には勢いが必要。茨城県をリードするまちになって欲しい。やりましょう！一緒に。

■ 市民参加について

- 市民がやることを「市」がいかにサポートするか。最初は「市」主体のスタートとなるかもしれないが、将来的には市民が市を呼べるようになるとうい。
- つくばも将来、ポートランドのように市民の力で変えることができればよい。
- ポートランドは好事例だと思うので、ぜひ市民が変わっていかねければと思う。
- 高校生が気軽に参加できるイベントをもっと開催してほしい。

■ その他

- 若者の海外志向が衰えていることも課題。
- 「庁舎でマイボトルを使い、ペットボトル・缶の飲み物を使わない」ことを、ぜひ全ての会議やイベントで実行してほしい。

